

親子、家族、地域のつながりを深めよう ～スポーツクラブのイベント企画・運営を通して～

団体名● Kam / 代表者名● 平下明日香（人間科学部スポーツ学科3年）

はじめに(背景・目的・目標)

コロナ禍やデジタルデバイスの普及による子どもの運動不足やコミュニケーション不足が問題となっている。そこで、学校や家庭という枠を超え、地域のスポーツクラブにおける子ども同士や、親子間の交流を増やすスポーツイベントを作りたいと考えた。さらに、子どもたちの実態に合わせた運動量の確保、怪我のリスクへの対応など、スポーツ学科生の専門性を活かしたイベントの企画・運営を行い、参加者にとって有意義な活動となるよう留意したい。また、昨年度の改善点から今年度は、サポートする学生が細かな部分のリスクマネジメントを行うこと、新規の競技の設定、安全面と運動量のバランスを取ることを目標とした。

活動内容

日程：6月9日(日)、11月10日(日)

場所：富山市旧総曲輪体育館

参加：こども体操教室カレッジに所属する子どもとその家族約50名、学生15名

内容：こども体操教室カレッジと連携し、学生主体でイベントを開催した。主な活動は、ラジオ体操、フラフープくぐり、チャンバラ合戦、リレー(○×リレー、障害物リレー)新聞タワー、しっぽとり、ドッジボールなど、4～5つ程度の競技を行った。



新聞タワー



○×リレー



競技説明



しっぽとり

成果、結果の考察

イベント実施後、毎回、振り返りやアンケートを行い成果と課題を把握し改善を図ることで、参加者の満足度を高めるように心がけた。各回の変容と結果の考察は以下の通りである。

【1回目】

成果：怪我への配慮と安全面の徹底、コミュニケーションの機会創出

課題：他クラスとの交流が深まりにくい

改善策：学生の競技への参加

【2回目】

成果：年齢を問わず楽しめるルールを設定し、幅広い運動の実施、チーム競技での学生の参加

課題：参加者の運動量

観覧者への安全対応

毎回の振り返りで得られた課題に対応・解決を行なって満足度の向上と新たなニーズの発見ができた。一方で、幅広い年代が一緒に楽しめるような競技のルールや方法の工夫に発想の転換が必要だと思われる。

今後の課題、展望

これからの課題としてタイムマネジメントを行い、時間の超過をなくす。また観覧者の対応としてコートの位置を調整し、安全に観覧できるようにしていく。また、イベントを盛り上げるために雰囲気作りを行っていく。企画面では子供達の実態に合わせた運動量を確保できる競技を設定し、ドッジボール以外のメイン競技を設定する。展望として発達段階が多様な子供とその保護者が夢中になって楽しめる工夫をしていく。生涯スポーツの考え方を取り入れた競技や、野外活動等のこれまでと少し異なる活動を視野に入れ、参加者のニーズを把握しながら検討していきたい。そのため、小学生のニーズを具体的に捉えるアンケート項目の工夫を図りたい。また、少数派の意見も大切にし、より満足度を高められることを目指していきたい。